

東京庄原格致会会報

第22号

2014年9月

発行人・積山弘佳
編集人・花田和教
印刷所・(株) クレスコアース
コミュニケーションズ

二十五年

総会報告

総会はいよいよの雨の中、十月二十日（日）、昨年と同じ会場「R五反田駅前」ホテルゆうぽうと」六階・紅梅の間で盛大に催されました。

三十八人の会員と四人の来賓者の出席のもとに定刻十二時から八谷幹事長（三十五年卒）の開会挨拶で始まりまし

た。幹事長から現在の会員数は六〇二人で昨年より二十九人減少したが、減少した主な要因は新規会員が少ないことと住所変更などで連絡がとれなくなった方が多いことであるとの報告がありました。

次いで亡くなった四名の会員の方のご冥福を祈り、黙祷がささげられました。続いて合田会長（三三年卒）から「絆の大切さ」と会の各活動への協力をお願いの言葉がありました。

次に来賓の紹介が行われ、片山母校同窓会長から母校の近況について「中学の多くの卒業生が都市部に流れる中で新入生確保に苦慮している。同窓会も校長・PTAと一体になって活動しており、その成果もあってここ二年は定員を確保することができた。少子化時代を迎え、学校再編成は必至かと思われるが当面は避けることができると考える。同窓会とし

ても必死で頑張る。」とのこと話を頂きました。

その後の議事では、寺川事務局長（三七年卒）の二十四年度事業報告・会計報告が行われ、満場一致で承認されました。

続いて役員改選が行われ、新会長に積山弘佳氏（三十五年卒）が推薦され満場一致で承認されました。

積山新会長から「何かと難しい局面であるが、しっかりと頑張りますので皆様の温かいご支援をお願いしたい」との決意表明がなされました。

第二部の懇親会は七階、末広の間に移動して、福場新副会長（四五年卒）の司会で始まり、出席者中の最年長者・山田健太郎さん（二三年卒）の乾杯挨拶、次いでご来賓の新井教享様（庄原実業・東京副支部長）から祝辞をいただいで会食に移りました。

和洋食メニューがいっぱいで、美味しい料理とお酒に舌鼓をうちました。

食事も進んだところで、ご来賓の国正和道様（世羅高校東京校友会理事）並びに山本芳樹様（東京広島県人会会員拡大委員長）から祝辞を頂きました。

楽しい会話の輪が広がる中、恒例の郷土のお土産を賞品とした福引が女性参加者の抽選で始まり場内が一段と盛り上がりしました。

その後、参加人数の多い年次（三五年

卒五人、三八年卒五人、三四年卒四人）が次々に壇上に呼びあげられ、近況・思い出話しが繰り広げられる一幕もありました。

会が盛り上がった頃、郷土民謡「敦盛さん」（庄原市無形文化財）保存会の大岩征子さん（三七年卒）のアカペラに追唱して歌い上げ、そのあと「校歌・応援歌」の斉唱でフィナーレを迎えました。

中締めは金森裕雄さん（二五年卒）の坂井昌彦さんを偲んでのお話があり、その後一本締めで懇親会を終了しました。

同級生らと来年の再会を誓って散会になりました。（事務局）



新会長の積山 弘佳さん



懇親会の様子



来賓の皆さん



懇親会の様子



出席された皆さん



女性陣の皆さん

出席者名簿

片山孝昭	庄原格致高校同窓会会長
新井敦孝	庄原実業高校東京支部副支部長
国正和道	世羅高校東京校友会理事
山本芳樹	東京広島県人会会員弘大委員長
山田健太郎	昭和二十三年卒 (峯田)
金森裕雄	昭和二十五年卒 (総領)
室伏孝一	昭和二十六年卒 (山内西)
岡田昌人	昭和二十六年卒 (庄原)
佐竹幸二	昭和二十六年卒 (川北)
田辺良武	昭和二十六年卒 (東城)
保田治義	昭和二十六年卒 (川北)
近藤正昭	昭和二十八年卒 (西城)
明賀 馨	昭和三十一年卒 (新庄)
信清 治	昭和三十一年卒 (庄原)
渡利治博	昭和三十一年卒 (本田)
中田唯之	昭和三十三年卒 (濁川)
生田八洲統	昭和三十三年卒 (川北)
合田良三	昭和三十三年卒 (川北)
森沢 進	昭和三十三年卒 (川北)
香川邦生	昭和三十四年卒 (川北)
黒田正宏	昭和三十四年卒 (山内西)
迫田芳徳	昭和三十四年卒 (門内)
米澤武則	昭和三十五年卒 (庄原本町)
田淵統洋	昭和三十五年卒 (口和)
積山弘佳	昭和三十五年卒 (庄原)
堀越淳子	昭和三十五年卒 (比原)
八谷英樹	昭和三十七年卒 (高)
吉岡公義	昭和三十七年卒 (庄原本町)
遠藤靖夫	昭和三十七年卒 (西城)
大岩征子 花好	昭和三十八年卒 (庄原本町)
寺川勝海	昭和三十八年卒 (西城)
岡崎千鶴子(伊藤)	昭和三十八年卒 (川北)
川野正江(明石)	昭和三十八年卒 (西城)
塚原通彦	昭和三十九年卒 (総領)
山口 進	昭和三十九年卒 (庄原)
山城建治	昭和四〇年卒 (西城)
花田和教	昭和四〇年卒 (東城)
福場美知留(市岡)	昭和四五年卒 (口和)
奥重秀彦	昭和四七年卒 (総領)
田原英樹	昭和四八年卒 (庄原)
武広 巖	昭和五三年卒 (川北)
坂口純代(黒田)	昭和五三年卒 (川北)

氏名の中の()は旧姓

二十六年度 総会・懇親会のご案内

十月十九日(日)

「ホテルゆうぽうと」にて開催

今年度の総会・懇親会を例年通り、十月十九日に開催いたします。

母校の校長先生並びに本部同窓会会長にも案内状を差し上げております。

備後弁で楽しい会になりますよう皆様のご参加をお待ちしております。

一、日時 平成二十六年十月十九日(日)

(受付開始は十一時三十分から)

総会 十二時から三十分程度

懇親会 約二時間(お開きは十五時三十分を予定しております。)

二、場所 ホテルゆうぽうと

総会は六階(かりんの間)・懇親会も六階(菖蒲の間)です。

所在地 東京都品川区西五反田

八丁目四番十三号

電話 〇三・三四九四・六三三九

三、会費 八千円

(但し女性並びにご同伴の方は六千円)

※年会費(二千円)は、当日受付でも承ります。

総会・会場のご案内



ホテルゆうぽうと
品川区西五反田 8-4-13
TEL. 03-3494-6339

- ・東急池上線「大崎広小路駅」徒歩約1分
- ・都営地下鉄、JR「五反田駅」西口徒歩約5分
- ・JR「大崎駅」西口徒歩約7分

東京庄原格致会の 発展を期待して



東京庄原格致会会長
積山 弘佳
(三五年卒)

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。

また平素より東京庄原格致会に対し、ご支援とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年10月20日「ホテルゆうぽうと」におきまして東京庄原格致会の総会・懇親会が開催され合田会長の退任にともない会長の大役をお引き受けすることになりました。

当日は、本校同窓会片山孝昭会長、世羅高校東京交友会国正和道理事、庄原実業高校東京支部新井敦孝副支部長、東京広島県人会山本芳樹会員弘大委員長にはご多忙の中ご臨席いただき誠に有難うございました。

お陰様で来賓4名、会員38名の出席のもとで盛大に開催することができました。総会では、すべての議案につきまして原案の通り可決していただきました。

また、会のあり方、母校との関係を考えているが、これも全会一致で承認していただきました。退任された役員の方々には会の発展のために、これまでご尽力を賜わり誠に有り難うございました。新役員一同気持ち新たに任務を遂行していく

所存であります。会員の皆様のご支援、ご指導をいただきながら、さらなる本会の発展の為に職責をまっとうして参りたいと思っております。今後ともご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

母校も小田源吉先生が明治30年に格致学院を開校されて以来116年の歴史の中、格致中学校、広島県立格致中学校、広島県格致高等学校、広島県比婆高等学校、広島県庄原高等学校、広島県立庄原格致高等学校と幾多の校名の変更はありましたが、卒業生全員、広島県北人の誇りと創立時以来の学びの精神「格物致知」を生かして人生を謳歌されていることと思います。現在母校も少子化が進み近郊の中学生の人数も年々少なくなっている中、いろいろな取り組みをされ「庄原格致高校を選びたい」入学して良かった「自分の夢をかなえることが出来る」このような学校を目指し校長先生をはじめ教職員の皆さんも頑張っておられます。

東京庄原格致会は、関東一円に在住される卒業生、在籍された方々で組織され、会員相互の親睦、母校の発展に貢献することを主に、先輩方が、伝統と歴史ある母校の同窓の会を関東地区で立ち上げられました。私もこの会には縁がありまして細川会長の時代から幹事として参加させていただいております。先輩方と旧制第六高等学校の東京事務所、おでんをつまみコップ酒を飲みながら会の運営や名簿作り、会報の立ち上げなどいろいろと議論を真剣に交わされていた様子が今でも目に浮かびます。

現在では会員名簿の作成、会報の発

行、年2回のゴルフ同好会、バス旅行会、囲碁クラブを開催し会員の皆様の懇親を図っております。

また、趣味を生かした同郷の人達との出会いに故郷の話もつきません。

今年の総会、懇親会には多数の会員の皆様の参加をお待ちしております。

会員の皆様のご支援とご協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。

「知性と創造、

信念貫く格致生」



広島県立
庄原格致高等学校校長
今岡 護

今年度4月より校長として赴任いたしました、今岡護と申します。どうぞよろしくお願いいたします。庄原格致高等学校への勤務は2度目となります。7年前まで10年間教諭として勤務しておりました。その後、東城高等学校の教頭を3年間勤め、西城紫水高等学校の校長を3年間勤めました。校長としては4年目を迎えます。年齢は、今年度で55歳となります。どうぞよろしく、お願いいたします。

本校は、今年度創立百十七年を迎える文字通り伝統と歴史のある高校です。庄原市内だけでなく、県北の人材育成校として果たすべき役割は非常に大きいと考えています。

本校は、校訓に「格物致知」を掲げ、

「物事に真剣に向き合い、真理を見極める」ことを教育の中心に、人間形成を目指して教育活動を展開していきます。「物事に真剣に向き合い、真理を見極める」、すなわち、物事について考えたり、より深い考察を行うためには、考えるための材料が必要となります。考えるための材料とは、その課題に対する情報やこれまでの取り組み内容、過去のデータなどの知識のことをいいます。つまり、基礎知識です。これは学習面においても同様です。初めから大学入試問題や模擬試験の問題が解ける人は殆どいません。難解な問題ほど基礎知識をどれだけ習得しているか、どれだけ基本的な問題を解いてきたかが問われます。本校は、基礎・基本の定着を通して、生徒自らが自分の夢に向かって努力し挑戦し続ける教育を実践していきます。

今年度の本校の教育方針となる言葉は、「知性と創造、信念貫く格致生」です。「知性」とは、単なる暗記による知識とは異なり、「物事を考え、理解し、判断する能力」のことをいいます。「創造」とは、知性を基に、新たな可能性を創り出すこと。そして「信念」とは、自分の目標や夢に向かって挑み続けるための揺るぎない志のことをいいます。この春4月に入学した1年生を初め、2年生・3年生も含め、自分自身の目標や夢に向かって格致高校で躍動してもらいたいと思います。そのためには、自分から働きかけること・自分から行動を起こすことを忘れず、恥をかくこと・失敗から学ぶことを経験してもらいたいと思います。そして、格致生として積極的な高校生活を

を過ごし、生徒一人一人が自分自身の「殻を破る」ことを期待しています。

さて、本校は、今年度も広島県の学力向上事業であるチャレンジハイスクールに認定されています。また、マレーシアでトップクラスのクアラ・セランゴール理数中高等学校と姉妹校提携を行い、昨年10月には本校の2年生が修学旅行で、クアラ・セランゴール理数中高等学校を訪問し交流を持ちました。また、今年度になり、5月28日～30日の間、クアラ・セランゴール理数中高等学校の生徒24名・教員3名の計27名が本校を訪れ、交流会、県立広島大学での実験体験、庄原日赤病院での高度医療見学、さらに本校生徒の家庭でのホームステイなどを行いました。

地域においては、本校と東城高校・西城紫水高校との学校間連携は4年目を迎えます。

部活動では、今年度の地区総体で、8クラブ・124名の生徒が県大会出場を果たしました。さらに女子卓球部と陸上部の3年生女子1名が中国大会に進出しています。女子卓球部が中国大会に進出したのは初めてのことです。県大会出場だけでなく、中国大会・全国大会を目指した活動を行っています。

本校は、学力向上のみを追い求めるのではなく、習得した知識を知性として活用できることを目指し、部活動や生徒会活動、ボランティア活動や寮生活に真剣に取り組むことにより、心を豊かし共感的な人間関係を育成する教育、周囲の人と協働して困難な課題を克服していく力の育成に尽力していきます。教職員一同、

全力で生徒の活動を支援し応援していきますので、同窓会の皆様には、今後も本校に対するご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



＜本校生徒とセランゴール生徒・教員とで、広島県の下崎教育長を表敬訪問した時の写真＞

「ご挨拶」



同窓会会長

片山 孝昭

(三三年卒)

東京庄原格致会の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。昨年十一月の総会には、合田前会長、積山新会長にご臨席いただき誠にありがとうございました。

当日は、昭和三十九年卒の幹事団を中心に各学年幹事の頑張りで、約一七〇数名の出席のもとで盛大に開催することができました。

総会修了後、懇親会に引き続き、初めての試みとして、約一時間会長会議を開きました。この事案につきましては、広島格致会の世良会長からの提案があり、全員一致で会議をしようという事になったものであります。

東京庄原格致会より合田前会長、積山新会長、近畿格致会より宮本会長、広島格致会より世良会長、庄原格致会正副会長及び幹事長の出席で、同窓会のあり方、庄原格致高校の現状と課題について意見交換し、非常に有意義な会となりました。今後は、年一回の貴重な集まりでありますので、会長会議は継続してゆくことを確認いたしました。

次に、去る六月一日に広島格致会が開催され、庄原から私と泉副会長、庄原格致高校から岡校長先生が出席いたしました。

総会は大変盛会であり、各層からいろ

いろご意見も出され、母校への熱い想いを身をもって感じた次第であります。

次に、庄原格致高等学校教育振興協議会の内容について説明しておきます。本協議会には、庄原格致高校が一学年三クラスの設定員割れが続く中、前任の三宅校長先生がこのままでは高校の存続そのものが厳しい状況になるので、是非とも行政の支援が必要であるとの意見が出され、三次市が支援している例を挙げて説明されたのがきっかけでありました。

早速、平成二三年に振興協議会を設立して、庄原市長へ要望書を提出致しました。

市は検討の結果、庄原格致、西城紫水、東城の三校へ年間六〇万円を三年間助成することが決定されました。そして三年間の成果をみて、継続するかどうかについて検討させていただくとの事でありました。従って今年度が三年目でありましたので、七月には、継続申請する予定であります。

次に、振興協議会の内容について説明します。

平成二六年度事業概要

(一) 三校連携事業の推進

これは庄原格致、西城紫水、東城高校三校連携による事業であります。

(二) 河合塾サテライト講座

(七講座を予定)

(三) 予備校(河合塾)の出張講義

1 センターチャレンジ(英・国・数)

一、二年生を対象に、基礎力の定

着と進路意識の向上を図ることを目的とする。

2 先進校視察 授業力の向上、先進的な学校経営を行っている学校の視察を通して、本校の教育力の向上を図る。

3 国際交流事業 姉妹校交流として昨年よりマレーシアのクアラ・セランゴール校との交流、今年度より修学旅行はマレーシア、シンガポール。

(四) 広報活動 格致デイその他

以上の事業を実施しております。その他、個人的には学校評価委員会、学校評議員として、年数回学校の経営計画、方針、取組みについて、総務部、教務部、生徒指導部、進路指導部等の説明を受け協議しております。これからの微力ではございますが母校発展のため努力していく所存であります。

終わりにあたり、東京庄原格致会のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご報告とご挨拶にかえさせていただきます。

会員だより

坂井昌彦先輩追悼の詞

室伏 孝一

(二五年卒)



坂井昌彦先輩の追悼の言葉を、積山会長から依頼を受けましたが本来は金森君が適任であると思いましたが、格致中学時代にスポーツを通しての仲間の一人として引き受けました。坂井昌彦先輩は私の一級上で先輩はテニス、私は卓球の選手として、ともに「県北一の坐」で活躍しました。坂井昌彦先輩は昭和22年の「金沢国体」の広島県代表として私と同級の故西田博英君とダブルスで出場しました。

先輩は、卒業後、早稲田大学に進学され、私は都立文京高校へ転校し、東京での再会となりました。格致高校の東京同窓会の発足当初からも一緒に幹事会に出席し、故細川会長が芝の旧制第六高等学校(現岡山大学)の東京事務所で、同窓会幹事会を開催していた時代は、同窓会の中核として活躍され、金森裕雄君が会員住所録を作成するについてそのサポートをされたことは忘れません。出版社で勤務の傍ら執筆もされ、佐藤一斎の「人の上に立つ人」言誌四緑の解説や、趣味を生かした「魚が好きなんもんで」(新風舎刊)は釣り好きな人、魚料理の愛好者には垂涎の単行本を刊行されました。日本ペンクラブの会員としても活躍さ

れ、比婆西高校の昭和27年卒の藤高君(元朝日新聞社勤務)等の間屋さん連中の「銀座での飲み会」には金森君もその一員でしたが、私も誘われて楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

テニスも私の母校の青山学院大学の学長とダブルスを組んで、大会に出場する等、日本テニス協会の公認指導員としても活躍されました。

格致会の名称に「東京庄原」を入れるかどうか、の意見には最後まで「格致」のみで進める意見を固持されるほど「格致」を誇りに思い続けた先輩でもありました。現在の「東京庄原格致会」の活動が今日あるのは「坂井昌彦先輩」のご尽力あつてのことは、皆さんとともに深く胸に留めたいと思います追悼の言葉とさせていただきます。

合掌

平成26年5月 室伏孝一(二十五卒)

比婆荒神神楽(ひばこうじんかぐら)について



兼利 卓蔵
(二八年卒)

過ぎし日に楽しんだ古里(ふるさと)の神楽を思い出すことがあります。

我が古里には「古事記」に記されています比婆山があり、その麓で行われています「比婆荒神神楽」があります。



秋の取り入れが終わり正月前の一段落した頃、農村の人達が楽しみな神楽が大きな農家を神楽宿として一昼夜、大太鼓・小太鼓・笛により神聖な神事が行われ、また賑やかに神楽が舞われ奉納されます。私は神事で舞われる「猿田彦の舞」がテンポの速い太鼓のリズムと囃し言葉に合わせて、二又四人の舞手の息が合い、剣や長刀を持って軽快にして勇壮な舞が一番好きでした。

最近では平成二十一年十一月小奴可神社で行われた小神楽を堪能させて頂きました。

全国各地にそれぞれの形態に分かれた神楽があり、神様と係わりながら日本人としての信仰を持っているように思います。



神楽と聞けば高千穂の夜神楽が有名です。

古里の「比婆荒神神楽」は昭和五十四

年国の重要無形民族文化財に指定されています。同神楽は里神楽系に分類され、また岡山の備中神楽の影響ありと思います。

比婆荒神神楽は「本山三宝荒神(もとやまさんぼうこうじん)」に奉納する祖霊信仰の神楽です。三宝とは火の神とかまどの二神を指し、荒神はあらぶる神で地域の守護神。この地域には中世から「名(みょう)」の形態が残り一族や集落単位で荒神さまを信仰していたようです。

比婆荒神神楽は毎年行う「小神楽」(一昼夜)と式年で行う「大神楽」(前の式年から数えて七年・九年・十三年・三十三年目、式年は名の習慣による)(二昼夜)。行事としては神楽宿を清め、荒神迎え、次に神事が行われます。これから神職により七座神事(神事舞) 曲舞、神舞、莫塵舞(ごごまい)、猿田彦舞などが舞われます。次に見物者の期待を集める能舞になります。大体三演目・国譲り(大國主命の舞)、猿田彦(悪魔退治の舞)、八重垣(大蛇退治)。以前は全て神職にて奉納されていましたが今は神楽同好会の方々と共演されているようです。

(「広島神楽探訪」三村泰臣著など参考)

思うままに記しましたが少々乱雑な面がありお許しを頂き、お互い比婆の古里を忘れないためにも山河を思い出し、祖先に感謝してこの立派な文化財「比婆荒神神楽」を伝承し、地域文化繁栄の一部として死守していかなくてはならないと考えております。

人生は楽しく 過ごしたいもの！

若山 博文

(四一年卒)

もうすっかり神奈川の住人になってしまいました。昭和45年に東京で就職、3年後横須賀そして横浜と仕事を移りながら、43年間の現役生活を無事終えて2年目です。リタイア後にやりたいことは現役最後の数年間で休日を使って試行、新しい人脈作りなどを進めました。今は街道歩き、ゴルフ、ソバ打ちが3本柱です。周りの人と一緒に自分も楽しめ、勉強できれば良いと、気楽に自分流で取り組んでいます。

一番力を入れている街道歩きでは、神奈川県内の旧東海道歩きのガイドボランティアもしております。お客様向けの定例イベントで毎月殆どの土曜日が埋まります。カミさんとの街道歩きや自分の趣味で旧武相エリアを中心に散策する分を加えると、平均的に週3日以上は外歩きに出ている状態で、結構忙しい毎日になります。

リタイア後の1年間は正にそんな調子でした。気付かないうちに疲れが溜まり何処か体のバランスが崩れた所為か、3月末に突然くも膜下出血に見舞われ、入院約4週間という全く想定外の事件に遭遇しました。自宅で、カミさんがいる時だった、救急車がすぐ来てくれた、専門医院に直ちに入院できた等の幸運が重な

り復活、さしたる後遺症もなく、無罪放免の診断が出て、事件は一件落着。退院3か月目、体調は安定、頭の隅でヒヤヒヤしながらも順調に体力回復を進めています。

それにしても、これまで65年間いけば健康優良児のように快調だった処での事件でビックリでした。落さずに済んだ命、支えて下さった皆さまに感謝し、今後は自分の健康を過信することなく、暴飲暴食を避け、程よい運動と睡眠に気を配り、元気に楽しい自適生活を送らなくてはと思っております。

こんな訳で、1年前の今頃東京庄原格知会の幹事役を受けたものの未だ参加実績ナシ、参加したのは平成11年度総会一度だけという状態です。早くお役御免にして貰った方が良いかと後ろ



【熊野古道歩き】2014年3月14日、海南市藤白坂(硯石)にて

向きの考えも浮かぶ一方、どんどん出たくなる、馴染み易い会を進めていくため、幹事役として声掛け・情報共有といった会員サービス面で何かお役に立てれば、と思ったりもしています。これまで何の貢献もしなかった私ですが、できるだけ積極的・主体的に参加して行きたいものです。

よろしくお願い致します。

頑張っています

【会員の活動取材報告】

第八回 写好会(MARO)ときめき写真展
神奈川県海老名市・市民ギャラリーで開催



助政千尋さん(四〇年卒)が「千紫万紅」のテーマで三点出展され、会員有志で昨年十一月十七日(日)に鑑賞しました。都内北区の都立旧古河庭園の洋館を素材としたもみじの色彩は鮮やかで素晴らしかったです。

第八十五回 第一美術展にて受賞
第一美術協会主催・都内港区六本木の国立新美術館にて開催

八谷達憲画伯(八谷義登さん・二〇年卒)が絵画の部一般十号に出展され、優秀賞を受賞されました。

会員有志で六月七日(土)に鑑賞しました。

屋受賞作の棟瓦を描いた「薨(いらか)」の絵は、油絵でありながら細やかな筆使いで八谷画伯の特徴が発揮された素晴らしい作品でした。受賞おめでとうございました。



母校だより

庄原格致高校の

近況報告

庄原格致高校 教頭

杉野 誠

新しく赴任して参りました教頭の杉野誠です。四月以来の本校の状況を報告させていただきます。

本年度の人事異動で校長・教頭が一度に異動するという大変忙しい状況の中で四月七日に就任式・始業式を行い、翌八日に入学式を行うというスタートになりました。一年生は早速翌九日から一泊二日の新入生オリエンテーション合宿(国立三瓶青少年交流の家)。また十五日には、新入生を対象にしたクラブ紹介が行われ、新入生のハートをつかむべく、各部の二年生・三年生が猛アピールを繰り広げました。その後、全校生徒で備北丘陵公園へ遠足に出かけ親睦を深めました。

五月十七・十八日、(土・日)の二日間、「Let Us Be」自分らしくあなたらしく 格致らしく」をテーマに、恒例の格致祭(文化の部)を盛大に開催しました。ステージ発表・展示にバザーと、校内のいたるところで生徒の躍動する姿がみられました。晴天に恵まれたこともあり、昨年を大きく上回る四百二十名ほどの保護者・地域の皆様

来場され、生徒の活躍に惜しみない称賛を寄せてくださいました。

さて、本年度これまでにおける最大の行事は、5月下旬の海外姉妹校 マレーシア国立クアラ・セランゴール理数中等学校生徒・教職員総勢二十七名の訪問、ホームステイでした。

平成二十三年度にスタートした広島県の海外交流推進事業により、県下すべての高校が三年のうちに姉妹校を探し、提携することを目的に動きだしました。本校は、さまざまな紆余曲折の後、昨年三月二七日に当時の三宅康生校長をはじめとする訪問団が同校を訪問し、姉妹校提携を結びました。県下百校余りの県立高校のうち、イスラム圏の学校と提携している学校は大変に珍しく、県教育委員会



日本文化の紹介イベント(柔道)

の担当者をして「最も困難」と言わしめた提携でした。

その後、昨年九月末に当時の二年生全員が修学旅行でクアラルンプール郊外の同校を訪問し、交流を深めました。これを受けて同校生徒二十四名と引率教員三名が来日し、五月二十八日から三十日にかけて本校を訪問するとともに、生徒・教職員宅でホームステイを行うことになったのです。

これまで、海外の学校からお客さんが見えること自体がほとんどなかったのに、二泊三日のホームステイをするわけですから、受け入れの準備は困難を極めました。ましてや、その途中で校長と教頭が人事異動で入れ代わったのですから、経緯の把握から始めなければならませんでした。



日本文化の紹介イベント(茶道)

四月になってからも、ホームステイ受入家庭が決まらない中で訪問生徒が増えたり、セランゴール校のスケジュールが直前まで把握できなかったり、何度も窮地に立たされました。筆舌に尽くしがたい心労の中で、それでもなお「格致のおもてなしの精神を具現化しよう」と「なるようになるさ」と励まし合い、準備を進めました。

この過程において、庄原市国際交流協会の会長を務められていた本校の前PTA会長 土井幹雄様から、何度も的確なアドバイスをいただくことができ、大変助かりました。

このような経緯でしたから、五月二十八日の朝、合流場所であるセランゴール校の生徒を見た時には、正直、ものすごく感動し身震いしました。



庄原赤十字病院高度医療見学(手術室)

校門から玄関にかけて作った人垣で迎えてから、同じく人垣で見送るまでの三日間の交流は、感動と発見の連続でしたが、困難な準備の期間を乗り越え、成功に導くことができた要因は大きく四点あったと思います。

第一に、生徒が積極的に関わり、主体的に動いたこと。

第二は、滞在二日目の県立広島大学庄原キャンパスと庄原赤十字病院の訪問の際、大変丁寧な準備と対応をしていたこと。

第三に、ホームステイ受入家庭の勇氣ある挑戦に支えられました。卒業生の保護者が、生徒が家庭にいないのに受入をして下さったのには感動しました。

第四に教職員の団結があります。ある面、職務ですから当然だと思われるかも



庄原赤十字病院高度医療見学(手術室)

しれませんが、担当の総務部を中心に、すべての先生方がその担当分野にに応じて力を尽くして下さり、その集大成で成功に導くことができました。

今年は九月に二学年百十九名と七名の教職員が修学旅行でセランゴール校を訪問することになっています。ラインで交流が続いている生徒もいたりして、この訪問が大変楽しみな昨今です。

郷土だより

帰郷二年半で

憶い馳せる事

中田 友之

(四〇年卒)

昭和四十年に格致高校を卒業し、十七回の転居を繰り返した終の住み家のつもりで西城に帰って二年半、当初は浦島太郎状態でしたがどうにか時間が解決してくれました。

ご多分にもれず人口減少と少子高齢化が急速に進んで中学、高校の頃の面影は全くありません。

西城に帰る前の四年間は沖縄の石垣島に強烈な花粉症を避けるため、逃避していました。

花粉と廃ガス、騒音の東京から引越



故郷の町(西城)

すと三日もすればすっかり花粉症で何だったっけという感じで快適に過ごしましたが、離島といえども今は車社会で八十歳を悠に超えたオジ、オバー(あちらではお年寄りをそう呼びます)が広い片側一車線の道路の真ん中を悠然と運転するのは閉口、そのほとんどは軽自動車です。

おそろく島内全車両の七十パーセント近くに達していると感じました。また沖縄の方言は分からないままでしたが日常で子供達はもちろん、若者も方言で喋っているのを聞いた記憶はほとんどありませんでした。

しかし西城に帰って見ると何のことはない、似たような状態です！

生活のテンポが少し石垣島のほうがゆっくりしているぐらいの違いしかあり

株式会社 龍 寿司

代表取締役 椎名 喜多子

(旧姓 室伏)

東京都中央卸売市場内・1号館

TEL/FAX 03-3541-9517 営業時間/午前6:30～午後2:00
TEL 03-3547-6894

(予約はお受けしていません。日曜・休日等市場が休みの日は休業致します。)

体がよろこぶ!

「効く」漢方の正体

東京庄原
格致会会員が
上梓しました

薬剤師 恵木 弘著 (株)東洋薬行社長 定価 1050 円(税込)

例えばカゼに効く葛根湯、10社以上から同名の商品が出ているが、品質は千差万別。当然、効果もまちまち。漢方生薬の品質を40年以上研究してきた筆者が、今まで誰も語らなかった、知らないと損をする「効く」薬の選び方を指南する。

お求めはアマゾン(www.amazon.co.jp)かお近くの書店まで



西城川

ませんでした。
生活の向上、インフラ整備と情報共有
化の成せる結果でしょうか。
人生は旅行に例えることができます。
喜怒哀楽、紆余曲折、様々な体験がで
きます。たとえ振り出しに戻ってこよう
とも再出発できることを喜ぶべきです。
かのクラーク博士の言った「××よ、
大志を抱け」
(Boys be ambitious like this oldman)
の××を自分の立場に置き換えて、新
たな旅行や体験にチャレンジしてみよう
ではありませんか、皆さん！

同好会だより

【囲碁同好会】

月一回の楽しい一時！初心者大歓迎、
一緒に楽しみませんか！

八谷 英樹
(三五年卒)

平成十二年に発足し毎月一回の例会を
積み上げてきた囲碁同好会は、この会報
をご覧いただく頃には一五七回目の例会
を迎えております。六月現在の会員数は
十六、病氣療養中・多忙等で出席が出来
ない方もあり概ね十二〜十三名で毎月楽
しく・和気あいあいに研鑽を続けていま
す。

六月には、今年一月から五月の成績上
位八人による上期のカップ杯争奪決勝戦
がダブルエリミネーション方式を採用し
たトーナメントで行われ、瀬尾明雄さ
ん(四〇年卒)が見事に優勝、準優勝は
敗者復活戦から勝ち上がった藤高明さん
(二七年卒)。それぞれに高額(?)賞金
を獲得してニコニコ・恵比寿顔で上期を
うちあげました。

例会は毎月第二日曜日午前十一時三十
分に新宿東口駅近くにある囲碁サロン
「喜楽」に集い夕方まで、参加費二千元
の内で事務局が買い求めたおにぎりやサ
ンドイッチで昼食をとり、缶ビール・チュ



藤高 VS 瀬尾の優勝決定戦

ウハイでのどを潤しながら和気あいあい
と棋力向上に努めています。会員の段位
は、日本囲碁連盟の基準に基づいて各人
に付与されたポイントから算出されてお
り、対局は、このポイント差で置き碁を
して行います。対局ごとに勝者にはブラ
ス三ポイント、敗者はマイナス三ポイン
トが加減算されます。六月末時点での最
高ポイントは坂部賢治さん(五三年卒)
の三百八十二(八段)、もっとも少ない
方は六十二ポイントですから、この両者
が対局するときは九目の置石に風鈴四個
となります。それでも余るポイントは放
棄というルールにしています。さすがの
高段者もこの棋力差・置石での戦いには
苦心惨憺する場面もみられ、普段では経
験できない楽しいひとときを過ごしてい
ます。

囲碁同好会の近況を述べてきました

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷 光徳(昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応

八王子市子安町1-32-19

TEL: 0426 (45) 4295 FAX: 0426 (44) 8549

URL: <http://www.h-soken.com/> E-mail: nisitani@h-soken.com

J E W E L E R

miwa

東京都中央区銀座6-7-2

TEL. 03-3572-5011

<http://www.miwaj.com>



が、広島弁を丸出しの楽しい会にあなたも一度顔を出してみてください。高齢者の仲間入りされた方にとっては認知症の予防には最適、仕事に疲れた方には適度の頭の体操によるリフレッシュは請け合いです。

囲碁の経験は問いません。有段者とはより初心者も大歓迎です。一度見学してみようという方は、事務局・八谷(090-11105-7272)まで連絡してください。お待ちしております。



優勝賞金を受け取る瀬尾さん

【ゴルフ同好会】

吉岡さんが連続三回優勝
第49回東京庄原格致会ゴルフコンペ

寺川 勝海
(三十七年卒)

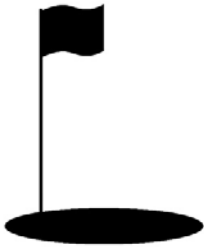
四月十一日(金)、恒例の東京庄原格致会春季ゴルフコンペが、神奈川県厚木市の東丹沢山麓にある大厚木カントリークラブ本コースで開催されました。

天気は晴れ、最高気温は二十度と寒からず暑からず最高のゴルフ日和。名物の桜は散り始めていましたが、山桜は満開で、樹々が芽吹いた山は色とりどりですばらしい景色でした。

今回の参加者は十名。日彰館高校(四〇年卒)の同校東京馬洗会会長杭迫重臣さん(初参加)、同じく岩竹康良さん(同三六年卒)も参加され、同郷同士の交流を図ることができました。

参加者は次のとおりです。(敬称略)
吉岡公義、合田良三、横山隆視、近藤正昭、亀井勲三、増山宏昭、生田八洲紘、杭迫重臣、岩竹康良、寺川勝海

結果は杭迫さんが第一位でしたが、初参加のため規定により第二位の吉岡さんが繰り上がり三回連続の優勝となりました。



スタート前、全員で

今回は記念すべき第五十回大会です。打倒吉岡さんを目指し、多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

次回開催予定

日時：平成二十六年十月七日(火)

八時四十分アウトコース

場所：千葉県市原市中高根一六六

立野クラシックゴルフ倶楽部

ご案内は別途いたしますが、しばらくごぶさたの方・初参加の方は明賀薫さん(080-5083-0673)宛てご連絡ください。

創業35年



二階堂調剤薬局
グループ

まへの薬局本店 二階堂調剤薬局
まへの薬局北口店 大山調剤薬局
まへの薬局南口店

代表取締役 薬剤師

石 井 美佐子

(旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21

TEL 03-3958-9955

「バス旅行」

熱海一泊旅行（第十一回）

昨年九月二十六日（木）熱海の伊東園ホテルに午前十一時に集合。現地集合でしたのでＪＲやマイカーなどで八名が集まりました。助政幹事の迷調子？の案内で市内循環の「ゆう・ゆうバス」に乗って、貫一とお宮の松・熱海城を見学してからレストランで昼食・美味しいビールで喉を潤しました。食後は、車内から起雲閣・梅林などを見物しながら来宮（きのみや）神社で降り参拝しました。樹齢二千年以上・周囲二十四メートルの大楠（国指定天然記念物）を一周して願掛けをしました。一心に願い事をされている姿が……微笑ましかったです。（笑）ホテルに戻り、



熱海湾にて

夫婦の冷めかけた愛が復活するという効用を信じ温泉につかりながら日頃の疲れを癒しました。午後六時から食堂でバイキング形式の食事、アルコールは飲み放題でした。まずビールで乾杯のあとは黒ビール・ワイン・日本酒など酒類豊富でしたので少し飲みすぎました。

二次会は、カラオケルームに行って、焼酎・日本酒を飲みながら演歌や懐メロ？を歌い、隣り席の女性組とデュエットなどで盛り上がりしました。平均年齢は……ここでは言えませんが（笑）午前様近くになり、部屋に戻っての三次会が始まりました。驚くべき老人パーティー……（少し盛り上がり過ぎ）翌日の朝、食堂には女性四人組が多く、昨夜のデュエットの相手チームも分からない状態でした。（笑）その後、全員で



来宮神社でお祈り

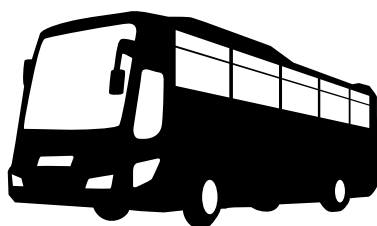
熱海湾を散策しながら観光案内の方から「貫一お宮の悲恋」の話を（なるほど……）と聞きました。急坂があり息を切らせながら登って、ようやくホテルに戻り散会になりました。

お疲れ様……しかし楽しかったです。幹事の助政さんに感謝です。

（事務局記）



貫一お宮記念像前で



食彩館しょうばら

ゆめさくら

庄原のお土産は、「庄原の食」を一堂に集めた「食彩館しょうばら ゆめさくら」特産店で！！

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 291 - 1
TEL 0824-75-4411 FAX 0824-75-4422
URL : <http://www.yumesakura.sakura.ne.jp>



庄原さくら温泉

かんぽの郷 庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1

TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

社長 長谷部 泰士（昭和48年卒）

平成 25 年度東京庄原格致会会計報告

(自平成 25 年 7 月 1 日 ～ 至平成 26 年 6 月 30 日)

(単位：円)

一般会計収支報告書

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	214,681	総会費	362,414
年会費	301,000	会報等印刷費・発送費	264,603
総会費	292,000	母校・他校参加費	100,000
お祝・寄付	91,000	同好会助成費	30,000
広告費	90,000	ホームページ更新料	33,100
受取利息	18	通信費	14,370
		会議諸経費・消耗品費	5,221
		振込手数料	13,240
		次期繰越金	165,751
合 計	988,699	合 計	988,699

特別会計（基金）収支報告書

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	50,068	次期繰越金	58,081
基金	8,000		
受取利息	13		
合 計	58,081	合 計	58,081

財産目録（平成 26 年 6 月 30 日現在）

(一般勘定)	165,751 円
郵便局 振込口座	91,570 円
〃 一般口座	74,181 円
現 金	0 円
(基金勘定)	
郵便局 基金口座	58,081 円
合 計	223,832 円

左記のとおり報告致します。

平成 26 年 7 月 7 日

東京庄原格致会

会 長	積山弘佳
監 事	遠藤靖夫
監 事	塚原通彦
事務局長	花田和教

東京庄原格致会役員名簿（二十五年十月二十日）

顧問		幹事		監事	
平田 耕司(昭和二〇年卒)	合田 良三(昭和三十三年卒)	若山 博文(昭和四十一年卒)			
金森 裕雄(昭和二十五年卒)	積山 弘佳(昭和三十五年卒)	奥重 秀彦(昭和四十七年卒)			
酒井 久幸(昭和二十五年卒)	追田 芳徳(昭和三十四年卒)	吉田 玲児(昭和四十七年卒)			
室伏 孝一(昭和二十五年卒)	副々	八谷 英樹(昭和四十八年卒)			
保田 治義(昭和二十六年卒)	副々	田原 英樹(昭和四十八年卒)			
兼利 卓蔵(昭和二十八年卒)	幹事長	矢吹 文伸(昭和五十八年卒)			
近藤 正昭(昭和二十八年卒)	副々	遠藤 靖夫(昭和三十七年卒)			
明賀 馨(昭和三〇年卒)	事務局長	塚原 通彦(昭和三十八年卒)			
渡利 治博(昭和三二年卒)	副々				
飛谷 安宣(昭和三三年卒)	幹事				
森沢 進(昭和三三年卒)	助政				

編集後記

☆母校の校長先生、片山同窓会長、教頭先生にはご多忙のところ快く寄稿していただき、母校の現況などを説明してもらい厚くお礼を申し上げます。

先日、テレビ東京の番組で「YOUはなにに日本へ」で母校（格致高校）に向かうマレーシアの高校生達と引率の先生が放映されましたが、同校との交流は我が国とイスラム圏との将来に大変意義あるものになると確信いたします。

☆当会関係者の皆様（団体等）から広告、寄稿のご協力を頂いての会報発行となりましたが、会報が会員相互の情報交換の場として活用され、当会と母校の発展に寄与できることを願っております。

☆会員の平均年齢が七十歳になりましたが、七十代は自分にとって一番面白い年代と言われております。楽しい愉快な近況報告やご趣味、ご意見を心よりお待ちしております。

☆会報の発行にあたり、校正に従事されました編集委員の方々にお礼を申し上げます。（事務局記）

ホームページ活用をお願い

<http://www.t-shobara-kakuchi.com>
ホームページをより充実したものにするため、皆様からの沢山の情報・投稿をお待ちしています。

年会費の納入のお願い！

「年会費」は、東京庄原格致会の会報発行等の運営費を賄うための最も重要な財源です。
御一人二千元をお願いしております。
お送りしております振替用紙で入金いただきますよう、よろしく願います。

デザイン・印刷・ノベルティで企業イメージをUPさせる
販促品をご提案いたします。



株式会社クレスコアースコミュニケーションズ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-2-5 CTN ビル 7F

TEL 03-5207-5189

FAX 03-5207-5089

www.cresco-ars.co.jp

ご寄付をありがとうございました。

この一年間に次の方々からご寄付などをいただき、心よりお礼を申し上げます。

岸水 五郎様	(三一年卒)
八谷 隆允様	(三七年卒)
渡辺 千草様	(三八年卒)
守長 和子様	(四一年卒)
平川 幹典様	(四三年卒)
石井 美佐子様	(四八年卒)

ご逝去のお知らせ

25年度総会でお知らせした後、事務局で把握しておりますご逝去された会員の方です。

小林 進様(二六年卒)

平成十二年ご逝去

謹んでお悔やみを申し上げます。